



Konoura News/March 2005 (平成17)

このうらら

仁賀保町・金浦町・象潟町合併調印式.....	2~3
第22回、23回仁賀保町・金浦町・象潟町合併協議 ...	4
金浦町議会臨時会	
交通死亡事故ゼロ日数3000日達成	5
掛魚まつり	6~7
子ども南極シンポジウム	8
郷土の偉人、南極通信	9
公的年金のしくみ	10
教育あれこれ、生き生きライフ	11
アトリエ元気っ子、仕事いろいろ夢たくさん ...	12
町立図書館こぴあ、俳句会	13
お知らせカレンダー	14



仁賀保町・金浦町・象潟町が 合併協定書に調印

2月4日(金) 仁賀保町・金浦町・象潟町合併協定調印式が、象潟シーサイドホテルで行われました。合併協定書へ調印した後、3町長と寺田秋田県知事がガッチリと握手を交わしました。いよいよ「にかほ市」誕生が現実のものとなってきました。

(関連記事：2~3ページ)



2月4日(金)、象潟シーサイドホテルにおいて、仁賀保町・金浦町・象潟町合併協定調印式が、多くの報道関係者が詰め掛けるなか、来賓及び関係者出席のもとに行われました。

はじめに、合併協議会幹事長である金浦町の佐々木助役が、これまでの協議経過と協定内容の説明を行い、続いて、3町長による合併協定書への調印、特別立会人である秋田県知事の署名が行われました。

調印終了後には、3町長と知事がお互いにガッツリと握手を交わし、新市の発展に尽力することを誓い合いました。

続いて、3町長があいさつ。この中で、「合併して一つの市になりたいという大きなエネルギーのもとに支持してくれました三町の町民の皆様に厚く御礼申し上げます。」

合併協議会では名称、事務所的位置等、幾多の難題解決のためにお互いに尊重しあった議論の積み重ねをしてまいりました。このことは必ずや新市発展の原動力となっていくことと信じておるところであります。

新市民が一日も早く一体化するためのコミュニティ施設、すなわち文化施設や総合体育施設は新しい市のシンボルとしてき

つとなくてはならないランドマークになることでありましよう。

夢ある豊かな元気なまち、実現のはじめの一步となりますことを、そして新市にかほ市がめでたく誕生し、全国の模範となるすばらしい市となりますよう心からご祈念申し上げます。」と述べました。

また、立会人を務められた寺田秋田県知事、秋田県議会議員である渋谷正敏氏が祝辞を述べられ、「強い、そして豊かな、夢のあるまちができると思う。勇氣と自信を持って出発してほしい。子や孫たちが良かったと言えるようなまちづくりに努力してほしい。私たちも新市のために一生懸命がんばりたい」とエールを送るとともに、新市誕生に大きな期待感を表しました。

式典終了後に、3町長が出席し、共同記者会見が行われました。

会見では、「3町合併の火を消したくなかった。すばらしい市となるよう3町の力を合わせて一生懸命がんばりたい」という力強い決意を述べられました。



平成17年2月4日（金）
秋田県知事立会いのもと、3町長が合併協定書へ調印



仁賀保町・金浦町・象潟町 合併協定調印式

平成17年10月1日
「にかほ市」誕生へ向けて！



共同記者会見に臨む佐々木金浦町長



あいさつする佐々木金浦町長



知事、3町長と合併協議会委員



仁賀保町・金浦町・象潟町合併協議会

合併協定書(案)を全会一致で確認

第22回合併協議会

1月26日、金浦町勤労青少年ホームで、第22回仁賀保町・金浦町・象潟町合併協議会が開催されました。

今回の協議は、新市まちづくり計画について(再協議)、協定項目の一部変更について、合併協定書(案)についての三件が議題となりました。

新市まちづくり計画について(再協議)

平成16年12月20日に、計画のすべてについて確認してありましたが、合併の期日が確認されたことなどにより、内容の一部変更と、財政計画の見直しが行われたものです。

協定項目の一部変更について合併の期日が確認されたことなどにより、前回までに確認された協定項目を見直し、その一部を変更したものです。

合併協定書(案)について
今まで協議され、確認されたすべての事項を合併協定書として提出したものです。

合併協議会委員が「合併協定書」へ署名

第23回合併協議会

2月4日、象潟町公民館で、第23回仁賀保町・金浦町・象潟町合併協議会が開催されました。

この日の協議は、前回に協議、確認した「新市まちづくり計画(案)」を県に提出し異議のない旨の回答を得たため、改めて確認したものです。

また、協議終了後には合併協議会委員全員が、「合併協定書」へ署名を行いました。



合併協定書に署名する合併協議会委員

秋田県知事に合併申請書を提出

2月8日、仁賀保町の巴町長、

金浦町の佐々木町長、象潟町の横山町長が、県庁を訪れ、寺田知事に合併申請書を提出しました。

寺田知事は、「山形県との県境に一つの市ができることに大いに期待している。休止したことにより、むしろシコリが無くなり、住民に一体感が生まれるのではないかと」と激励。

巴仁賀保町長は、「協議会設立は県内で一番となったが、合併申請書の提出は10番目となっていました。10月1日の合併まで、しっかりとやっていきたい」と述べました。



寺田知事と3町長

図書館「こびあ」に図書を寄贈

金浦ライオンズクラブ

奉仕団体である「金浦ライオンズクラブ」が、金浦町立図書館「こびあ」へ図書を寄贈されました。

今回寄贈された図書は、「大きな活字で読みやすい本」で、普段、活字に親しめない方でも、読みやすくなっています。ぜひ、図書館「こびあ」へ足をお運びください。

寄贈された図書

- 剣客商売 池波正太郎 3冊
- 大図解 簡単料理コツのコツ 全5巻
- 文学賞受賞、名作集成 全10巻



寄贈された図書

三町で臨時議会を開会

合併関連議案を可決

2月4日、仁賀保町、金浦町、象潟町の3町で臨時議会が開かれ、地方自治法と合併特例法に基づく合併関連議案5議案が可決されました。

これは、三町合併協定の調印が行われたことを受け、開会されたものです。

議決された議案

市町の廃置分合について

平成17年10月1日から由利郡仁賀保町、同郡金浦町及び同郡象潟町を廃し、その区域をもってにかほ市を設置することを秋田県知事に申請することについて議会の議決を求めたものです。

市町の廃置分合に伴う財産処分について

平成17年10月1日から由利郡仁賀保町、同郡金浦町及び同郡象潟町を廃し、その区域をもってにかほ市を設置することに伴う同市の議会の定数について、議会の議決を求めたものです。

平成17年10月1日から由利郡仁賀保町、同郡金浦町及び同郡象潟町を廃し、その区域をもってにかほ市を設置することに伴う財産処分について、議会の議決を求めたものです。

市町の廃置分合に伴う議会の議員の特例について

平成17年10月1日から由利郡仁賀保町、同郡金浦町及び同郡象潟町を廃し、その区域をもってにかほ市を設置することに伴

う議会の議員の在任の特例について、議会の議決を求めたものです。

市町の廃置分合に伴う農業委員会の委員の任期の特例について

平成17年10月1日から由利郡仁賀保町、同郡金浦町及び同郡象潟町を廃し、その区域をもってにかほ市を設置することに伴う農業委員会の委員の任期の特例について、議会の議決を求めたものです。

市町の廃置分合により設置する市の議会の議員の定数について

平成17年10月1日から由利郡仁賀保町、同郡金浦町及び同郡象潟町を廃し、その区域をもってにかほ市を設置することに伴う同市の議会の定数について、議会の議決を求めたものです。



合併関連5議案を賛成多数で可決

合併関連議案の金浦町議会での議決状況

事件名	賛成数	反対数	欠席数
市町の廃置分合について	12	1	0
市町の廃置分合に伴う財産処分について	12	1	0
市町の廃置分合に伴う議会の議員の在任の特例について	11	2	0
市町の廃置分合に伴う農業委員会の任期の特例について	12	1	0
市町の廃置分合により設置する市の議会の議員の定数について	12	1	0

今後のスケジュール

秋田県議会による議決

秋田県知事による合併の決定

秋田県知事による総務大臣への届出

総務大臣告示

合併施行(平成17年10月1日)

交通死亡事故ゼロ日数 3000日を達成

2月9日を持ちまして、金浦町は交通死亡事故ゼロ日数3000日を無事達成いたしました。これは、現在ゼロ日数継続中の市町村としては県内最長であり、金浦町としても3000日は初の達成となります。

2月18日には、達成記念式典が金浦小学校で開催され、交通安全関係者及び金浦小学校児童など約330名が出席しました。式典では金浦町長が、「今後も、これまで以上に気を引き締め、一人も交通事故を起こさないよう、交通安全運動に取り組んでいく」とあいさつ。

また、秋田県知事から表彰を、県警本部長から賞状を受け、「交通事故の無い日本一安全で安心な郷土を作っていたいただき

い」と励ましの言葉をいただきました。

さらに、子供たちに対し象潟警察署より、「道路を渡る時は、左右の確認を心がけましょう」となどと交通安全ナーについて講話がありました。

最後には、交通安全鼓隊によるマーチングが演奏され、また町長より、子供たちに反射シールが贈られました。

これまでの経過

- 平成6年10月8日
- 平成10年10月8日
- 平成14年5月16日
- 平成15年9月28日
- 平成15年9月28日
- 平成15年9月28日
- 平成17年2月9日
- 平成17年2月9日
- 平成17年2月9日



秋田県知事から表彰状を伝達



交通安全鼓隊によるマーチング

豊漁と海上安全を祈願

掛かけ魚よまつり



大タラを神前に奉納



大きなタラに見入る子どもたち



大タラを担ぎ町内を練り歩く

奉納後、神社向かいの勢至公園では、町の郷土芸能である「金浦神楽」が披露されたほか、タラ汁や町の特産品が販売されました。

タラ汁は、1200食用意されましたが、本場タラの味を堪能しようと、販売前から長い列ができるほどの盛況ぶり。2時間であちまち完売となりました。

タラ汁の味付けは、タラの素材を生かしたシンプルなものですが、長い間待つてようやく手にしたタラ汁が、冷えた体を温めてくれました。

2月4日、金浦町の祭りを代表する「掛魚まつり」が行われました。

この日は、雪がちらつく中、風も強く、寒い一日となりました。

午前10時、総数36本のタラ行列が、奉納場所である金浦山神社を目指して、秋田県漁協南部総括支所を出発。行列には、漁師のほか、町内各団体や、小学生など約200人が参加し、最大で15kgもある大タラを2人1組で肩に担ぎ、町内約2kmを練り歩きました。

沿道や参道には、大タラをひと目見ようと多くの見物客が詰めかけ、その大きさに感嘆の声を上げていました。

神社では、36本の大タラが奉納され、豊漁と海上安全を祈願しました。

また、タラ担ぎ体験コーナーでは、地元の子供たちを前に、写真家たちが撮影する姿が多く見られました。

金浦のタラ漁は、気象条件がもつとも厳しい1月から2月が最盛期です。気象観測を勤と経験に頼り、また船も現在より貧弱な昔には遭難が絶えず、タラ漁は命がけであった。だからこそ、神に感謝を捧げ、祈る人々の信仰は厚く、また、漁に出掛ける自らの誇りが三百年の伝統を支えます。

今年も安全で、そして港が豊漁に沸き、活気づく一年でありますように……。
この日は、約3,000人が訪れました。

掛魚まつり

毎年2月4日の立春の日、金浦山神社の社頭にくりひろげられる「掛魚」は、「掛魚まつり」、「タラまつり」などと呼ばれて全国に紹介され、奇祭のひとつに数えられている。

350年ほど前に越後の人によって鱈漁法が伝えられてからは、金浦が鱈漁の本場となり、「金浦鱈」は冬の味覚を代表する名物とされている。



このお魚、大っきいなあー

タラを解体中！

身体があったまるタラ汁

さえも出漁を見合わせる程の大雪が続く、猛烈な風雪が荒れ狂うので、わずかな晴れ間があると瀕死の親をさておいても出漁したものだと言われている。

だが、気象観測を経験と勤に頼らねばならない時代には、その犠牲も大きく、一挙に86名の海死者が出、村に男性の大人が見られなくなつたと伝えられている。

こうして命がけて水揚げした鱈も、そのころはお上に上納する重要な税であつて、一般庶民はもとより漁師たちの食糧にのぼることさえ珍しかったとされているが、そのようななかで、

漁師たちは漁獲の一部をさいて守護神に奉納して感謝を捧げ、さらに今後の海上安全と大漁を祈願する風習が自然発生的に生まれ、それがやがて漁師全体、村全体の行事として一定の日に行われるようになり、さらにはそれぞれの獲物の大きさを誇示する要素が加わつて祭化していったものであるうと思われる。

もともとこの行事は、かつて漁師の多くが北向地区を中心に住んでいたことから、北向の神明社で行われていたようであるが、のちに現在の金浦山神社に移った。

第37回

金浦町婦人大会を開催

金浦町婦人団体連絡協議会

2月19日、金浦町勤労青少年ホームで、金浦町婦人大会が開催されました。

この大会は、町内に住む婦人が、生涯学習時代にふさわしい教養を身に付け、また健康の増進を図りながら親睦を図るもので、37回目の開催となりました。今回は、講師に岩手大学教育学部助教授の新妻二男氏を迎え、「夫婦・家族関係の見直しと再生」と題して講演会を行い、「夫婦は互いに相手を選んだ結果だが、嫁・姑の関係は他人が偶然にも顔を合わせたものだ。ぶつかりあつて当たり前。」「夫婦間の期待値と現実とのギャップ」

ヤップが問題を生むものとなる」などと持論を展開し、会場に集まつた婦人たちは、互いに頷きあつていました。

また、講演会終了後には地域婦人会や母子福祉会、農協女性部、商工会女性部、由利高民謡部有志らによる踊りが披露され、会場は大きな拍手に包まれました。



新妻二男氏による講演



由利高民謡部有志による「秋田大黒舞」

南極探検隊長 白瀬中尉をしのぶ集い

子ども南極シンポジウム

南極から地球環境を考える。美しい地球を守ろう。

1月27日、南極探検隊長 白瀬中尉をしのぶ集いが行われました。雪中行進をはじめ、今年は毛利衛氏を講師に迎えての基調講演、中学生を中心としたシンポジウムを開催するなど話題盛りだくさんとなり、町内外から約650名の方が参加されました。

毛利 衛さんが講演



日本科学未来館館長で宇宙飛行士の毛利 衛氏の基調講演

基調講演

地球環境の大切さ考えて！

日本科学未来館館長で、宇宙飛行士の毛利衛氏が、水をテーマに「考えよう地球環境！美しい地球を守ろう」と題して基調講演を行いました。

毛利さんは、自ら体験した宇宙空間での実験などを紹介。参加した中学生に「なぜ、雲は落ちないのか？」「スペースシャトルが発射される時、大量の水を噴射するが、なぜ？」などと質問を投げかけ、自然から学ぶことの大切さや、身の周りで起こる様子に「なぜなんだろう？」と考えてみることの重要性と楽しさをアドバイスしてくれました。

雪中行進

白瀬中尉を偲ぶ

シンポジウムに先立ち「雪中行進」が行われました。吹雪の舞う中、金浦小・中学校の生徒、海洋少年団、南極探検隊長白瀬顯彰会や町民たち500名が、白瀬南極探検隊記念館から金浦小学校までの道のり約3kmを探検隊旗を掲げて行進しました。途中、生家である浄蓮寺に立

ち寄り、墓前に黙とうを捧げ、白瀬中尉を偲びました。



雪中行進 = 500人が参加し、町内約3kmを行進

南極とのテレビ交信

当時役場職員 伊藤健さんが出演

衛星回線を使い、第46次南極観測隊に参加している当時役場職員の伊藤健さんとテレビ交信を行いました。

生徒らの「南極で楽しいことは何か」「困ったことは？」という質問に、「ペンギンやアザラシなどの動物と会えることが楽しい」「困ったことは特に無いが、日々の生活は自分たちが持つてきた物資の中でやらなければならぬ。この間、自分の大好きなアイスクリームを久し

ぶりに食べた。」などと答えていました。

シンポジウム

環境保護をテーマに意見交換あゆかわのぼるさんをコーディネーターに、金浦、仁賀保、象潟、西目四町の中学生が環境保護をテーマに、意見交換を行いました。

参加した生徒らは、自分たちの身近な生活での出来事をとらえ、「私たちの今の生活が当たり前だと思っていたが、そうではない。地球は追い詰められている。」「環境破壊は地球だけでなく、私たち自身の生活も脅かしている。自然と人間が共存することは可能か？」と問いた



金浦、仁賀保、象潟、西目の各町の中学生がパネリストとなったシンポジウム

郷土の偉人

白瀬 轟

(第四十六回)

開南丸

朝日新聞社が手を引いたことはたしかに大きな痛手でありましたが、結果としては一気に出発へと轟らを駆り立てるはずみともなったのです。

後援会が第二報効丸を「報効義会」の郡司から購入し、その手続きのすべてを完了して正式にこれを探検船とすることを発表したのは十月二十日で、これに関連する形でその翌日、朝日新聞社が前に述べた「義務責任終了」の社告を出したのです。その文中に「第二報効丸」に決定ということが書かれていました。

さて、その第二報効丸は、船籍が変わるとともに船名も変わりました。新しい船名は、開南丸。その名付け親は、五年前の日露戦争でバルチック艦隊を全滅させた連合艦隊指令長官、東郷平八郎海軍大将でした。

開南丸とは「南を開く」船という文字通りの意味で、まさに

南極探検船にふさわしい名前でした。

さっそく石川島造船所で昼夜兼行の改造工事が行われました。その結果、形式はスクーナー型三本マスト、木造重甲板船、この帆船に十八馬力の蒸気機関をつけて、角材や鋼鉄板などによる補強で、総トン数は二〇四トンになったのです。つまり五トンほど重くなりました。船体の長さ(水線間で)三三・四八メートル

船腹(肋骨の外側で)七・八五メートル
船体の縦深 竜骨の上面より下端まで)三・八九メートル

船体の外側には氷海で遭遇するさまざまな事態、たとえば氷塊が衝突することを予想して、吃水線の上下あたり約六・三センチの厚板を張り、それ以外の部分は二・五センチの板を二枚張りしました。さらにその上にフェルトと鉄板を張りました。メインマストには桶の見張り台をつけ、船体は白塗りに二本のあか朱線が入ってスマートに仕上げられています。

こうして改造された開南丸は一等運転士丹野善作の「思い出の艦」によると、「この船なら、水深の十分なる所ならば、どこまでも航海に耐え得る。それは本船の構造を見ても確信せり」

と書いています。もちろん、それには不慮の災難がなければという前提があつての話ですが。

南極圏内では流水や氷山などと衝突、あるいは未知の海だけに、どこに暗礁があつて座礁しないとも限りません。それだけを注意し、用心に用心を重ねて航海すれば、十分に使用に耐える船であると証言しています。

開南丸は改造を終えて、十一月二十一日、海軍局の検閲を受けるため公式試運転を行い首尾よく合格しました。

その日の勇姿を丹野善作は次のように記しています。

マストに日章旗と三宅雪嶺の図案による南十字星を象つた探検隊旗を掲げて、晴天、北の軽風のなかを石川島造船所から御台場、そこから引き返して石川島造船所まで約四哩を航走した。

船上には海軍局の山本海軍官、石川島造船所田中課長、そして後援会の有志、探検隊員、船員、新聞記者らが試乗した。とあります。

(丹野善作氏の「思い出の艦」は子息の丹野収氏から寄託され、白瀬南極探検隊記念館に常時展示しています。)

参考文献

白瀬京子著『雪原へゆく』

南極通信

「南極到着」

昭和基地で南極らしい景色と言え、海氷上に見える氷山くらいで、ペンギンやアザラシを見かけることはほとんどありません。

昭和基地の近くにはペンギンのルツカリ(集団営巣地)はないので、いつでもペンギンを見られるというわけではなく、遠く離れた所から遊びに来るペンギンをこくたまに見かける程度です。

間近でペンギンを見たいなと思つていたら、チャンスが訪れました。廃棄物の調査で袋浦へ行くことになったのです。

袋浦は昭和基地から南へ約60km離れた、南極大陸の沿岸部で、そこならきつと間近でペンギンが見られるとワクワクしながら観測隊へりに乗り込みました。

袋浦ベースキャンブから約100mのところにはアデリーペンギンのルツカリがありました。数十羽のアデリーペンギンがいましたが、調査を行っていた坂本さんによると、日中は親のペンギンは餌を探りに行っているの少ないですが、夜になって帰ってくる約400羽が集まるそうです。

12月末に生まれたヒナも成長し、親の三分の二くらいまで大きくなっていました。

海中へ餌を探りに行った親ペンギンは胃の中に餌を蓄えて戻

り、それを吐き出してヒナに口移しで食べさせます。白いお腹が血を出しているように赤くなつていたので、怪我をしているのかと思いましたが、主にオキアミというエビのようなものを餌とするため、ヒナに餌を与え

る時に汚れてしまうそうです。ヒナは親にびったりとくっついて離れないのもしれば、いたずらして怒られているのを見て、そんな光景を見ていると、人間と大して変わらないなと思えました。

廃棄物調査の合間の短い時間でしたが、南極の魅力をつづぶりと味わうことができました。



廃棄物の収集作業

伊藤さんの毎日の日記をホームページで公開しています。彼の普段の生活の様子などが語られていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.chokai.ne.jp/copia>

遺族基礎年金

～ 家族の経済的な中心である夫が死亡したとき、
妻や子の経済的な生活基盤を保障します～

遺族基礎年金は、次のいずれかの条件を満たして亡くなった夫の子または子のある妻が受給できます。

国民年金に加入している間に死亡したとき

加入を終えた後でも、60歳以上65歳未満で日本国内に住んでいる人が、死亡したとき

老齢基礎年金を受けている人や、老齢基礎年金の受給資格期間を満たしている人が死亡したとき

遺族基礎年金額は、

子がある妻が受ける場合（対象となる子は、障害基礎年金と同様です。）

	基本額	加算額	合計
子が1人いる妻	794,500円	228,600円	1,023,100円
子が2人いる妻	794,500円	457,200円	1,251,700円
子が3人いる妻	794,500円	533,400円	1,327,900円



3人目以降は1人につき76,200円が加算されます。

子が受ける場合（対象となる子は、障害基礎年金と同様です。）

	基本額	加算額	合計	1人当たりの額
1人のとき	794,500円	-	794,500円	794,500円
2人のとき	794,500円	228,600円	1,023,100円	511,600円
3人のとき	794,500円	304,800円	1,099,300円	366,400円

3人目以降は1人につき76,200円が加算されます。

「南極記」が英国で出版へ
白瀬壘の探検紀「南極記」の英訳版が、今秋にも英国で出版されることになりました。
「南極記」は、白瀬隊の日々の行動と出来事を、南極探検後援会（大隈重信会長）が物語として編集したもので、白瀬が南極から帰国した翌年の一九一三年に出版されたものです。
しかし、今までは翻訳版がありませんでした。今回、英訳に取り組んだのは、英ケンブリッジ大学スコット極地研究所の女性南極書誌学者ヒラリー・シバタさんと長女のララ・ダグネルさん。
今まで以上に、白瀬の名が世界に知られる機会となるでしょう。



笑顔印

金浦駐在所

「セーフティロード金浦」
～めざせ事故のない町～

～自転車も 一時停止を 忘れずに～
歩行者も 交通ルールを守る義務

交通事故は、家庭や職場に大きな損失を与えるばかりでなく、これまでの幸せな家庭を一瞬にして不幸にしてしまいます。

交通事故防止の原点である「交通安全は家庭から」を合言葉に、悲惨な交通事故をみんなで防止しましょう。

【運転者の皆さんへ】

スピードは控えめに慎重な運転を
ゆずりあいといわりの気持ちで

【歩行者、自転車利用の皆さんへ】

横断するときは安全を十分確認して
交差点等での危険な通行の禁止

金浦町における交通事故発生状況

区分	1月中の事故	平成16年累計 (1月)	平成16年累計 (1月)
人身事故	件数	2件	0件
	死者	0人	0人
	傷者	2人	0人
物損事故	5件	5件	8件

郡市スポ少 スキー競技で優勝

1月9日に、東由利町太平スキー場で行われた、第6回本荘市由利郡スポーツ少年団種目別交流会スキー競技で、金浦小学校5年生の阿部京佳さんが見事優勝しました。

成績

小学校5年生女子の部

第一位 阿部 京佳さん

(一本目 40秒17 二本目 40秒01)

中学校男子の部

第五位 齋藤 啓介さん

(一本目 37秒29 二本目 36秒64)

スポーツ少年団女子の部総合

第三位 得点19点

趣味の写真を通して得たもの

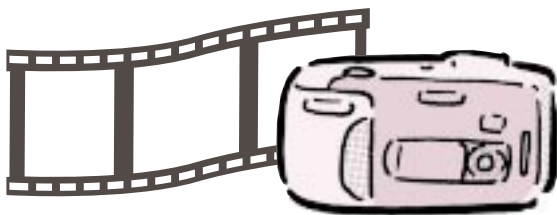
私が写真を始めたきっかけは、高校時代に所属していた山岳部の県大会や夏山・冬山合宿等で、県内外の山岳を歩き廻った頃、出会った自然の雄大なスケール、時々刻々と変化する感動的な光景を目の当たりにし、その瞬間での自然が織り成す神秘的な現象や風物を、いつでも見られるように、その手段として写真に撮っておくのが、一番手っ取り早い方法でありました。

当初は、主に山岳風景や高山動植物等を撮っておりましたが、自己満足だけのよきいう絵八ガキ写真の枠から抜けられず、独学での作品作りの難しさの壁に阻まれ、何度、県展美術展に応募しても、入選に至る作品を撮ることが出来なかったのです。師を持たない私は、写真雑誌や展覧会の写真の入選作品を見る事で、自分の写真に対する取り組み方の間違いを知りました。

心機一転、一から出直すことで、作品にも変化が表れ県展にも入選することになり、丁度そんな時、町内の写真好きの方々から声が掛かり、現在の写真愛好会が発足し約30年になります。

芸文協に加盟し、公民館事業である秋の産業文化祭の写真展示や、夏のロビー展に向け、年に何回か会員の皆様と撮影行に出掛け、互いにポイントを探して、苦労しながら撮った自信作を展覧する事を心待ちにしております。そして、何よりも多数の町内外の方々から鑑賞して頂き、ご意見やお褒めの言葉が励みとなります。写真を通して知り合った素晴らしい仲間と共に切磋琢磨し、公民館事業と芸文協発展のために非力ながら尽力してまいりたいと思います。

(金浦町生涯学習活動誌 湾頭 第3号より)



行政相談のお知らせ

行政相談とは、国、県、町の行政に関する苦情や要望を受け付けることをいいます。

次の日程で行いますので、ご相談ください。

とき 3月14日(月)

14時～16時

ところ 元気百歳館

金浦町行政相談員

佐藤 慈明



4. 7. 10. 12カ月児健診

日時 3月30日(水)

場所 保健センター

受付 4カ月児 13:00～13:10

7カ月児 13:10～13:20

10カ月児 13:20～13:30

12カ月児 13:30～13:40

対象 平成16年3月、5月、8月、11月に生まれた乳児と前回の健診を受けられなかった乳児

持ち物 母子健康手帳、アンケート票

4カ月児、7カ月児健診の対象者は、離乳食講習がありますので、受付時間に遅れないようお願いいたします。

また、「おんぶひも」がありましたら持参してください。

3歳6カ月～3歳8カ月健診

日時 3月29日(火)

場所 保健センター

受付 12:50～13:00

対象 平成13年7月～9月に生まれた幼児と前回の健診を受けられなかった幼児

持ち物 母子健康手帳、歯ブラシ

3歳児アンケート票

3歳児歯科アンケート票

保健センターで遊ぼう

日時 3月10日(木) 9:00～12:00

場所 保健センター(健康指導教室)

対象 乳幼児とその家族

お菓子、ジュースなどはご遠慮ください。

健康よろず相談

日時 3月14日(月) 9:00～11:30

場所 保健センター

健康づくりや介護に関する事など、保健師による相談会です。どなたでもお越しください。

アトリエ元気っ子

かんがるー
きりん組のおともだち



佐藤 優
(浜の田)

毎日、食事が出来ると大おばあちゃんを呼びに行ってくれる優。たまに、お兄ちゃんとケンカもするけど、これからも優しい子でいてもらいたいです。

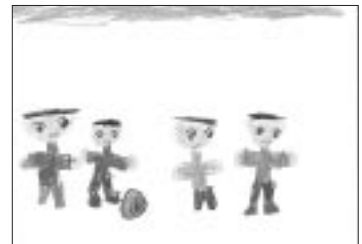


「ゆきあそび」



佐藤 晃平
(花 湯)

物を作るのが好きで、遊ぶ物もお菓子の空き箱などで、自分で遊んでいます。



「サッカー」



高橋 桃花
(金 浦)

3姉妹の一番上。妹達の面倒をよく見てくれるやさしいおねえちゃんです。



「おみせやさんごっこ」



武澤 亜弓
(花 湯)

お絵書きと、本を読むのが好きです。お気に入りの本は「こどもとしぜん」です。



「なわとびあそび」

仕事いろいろ夢たくさん

浜っ子たちが思う未来の自分



佐々木 誠
(高 森)

ぼくは、大人になったら、警備員になりたいです。

お父さんの仕事も警備員です。だから、ぼくも警備員になりたいです。

警備員になったら、赤い光のついた棒を回したり、横にしたりして車を止めます。

僕はお父さんと一緒に警備員をしたいです。



須藤 遥
(十二林)

私の将来の夢は、盲導犬の訓練士になることです。

私は、犬が好きで、犬に関する本を読んで、その中で盲導犬がとてもしないことを知りました。

訓練士になって、たくさんのお導犬を育てたいです。



佐藤 安希
(花 湯)

私の将来の夢は、学校の先生です。

その理由は、いま習っている勉強を教えてあげたいからです。

なので、一〜五年生までの勉強は忘れないようにして、六年生の勉強をがんばりたいです。



佐藤 一雅
(金 浦)

僕の将来の夢は、まだ決まっていません。

ですが、自然を守る仕事をしたいです。

だから、温暖化を防ぐように、毎日、無駄な電気は使わないようにしたいです。



レクリエーションの様子



結索訓練

2月5日〜6日、金浦町公民館で、東北地区内の海洋少年団員45人が参加し、スノーレインゲキャンプが行われました。キャンプでは、手旗信号や結索(ロープワーク)の練習のほか、ダーツゲームなどの楽しいレクリエーションも盛りだくさん行われ、笑いの絶えない1泊2日の研修となりました。

金浦海洋少年団 スノーレインゲキャンプ



『北朝鮮が核を
発射する日』
-KEDO政策部長による真相レポート-
イ・ヨンジュン / 著
PHP研究所

これが日本史上最大の危機の
真実だ！
北朝鮮の核問題に身近に接し
た第一線の外交官が綴った生々
しいレポート。核に関する基本
知識が得られるだけでなく、北
朝鮮の核問題に関する疑問が解
明できる。



『更年期障害』
-心のゆらぎとつきあい、
乗り越えよう-
主婦の友社

更年期のメカニズム、症状、
検査、治療、対策、生活の知恵
などを、それぞれの分野の専門
医がやさしく、ていねいに説き
明かす。体の悩み、心の不安を
解消するアドバイスや、今いち
ばん新しい情報が満載。



『野ブタ。
をプロデュース』
白岩玄 / 著
河出書房新社

舞台は教室。プロデューサー
は俺。いじめられっ子転校生
(キモチ悪いほどおどおどした
デブ)を人気者にすべく、俺は
プロデューサーを買って出た！
『文芸』掲載を単子本化。第41
回文芸賞受賞作。



『ピースモチーフの
仲間たち』
佐々木公子 / 著
ブティック社

愛嬌たっぷりのオリジナルキ
ャクターを、ストーリー性を
持たせて紹介する。
ミッキー&ミニー、くまのプ
ーさんなどのデイズニーキャラ
クターも登場！



『はなになりたい』
すまいるママ / 著
ソニー・マガジズ社

心優しいライオンが、ある日、
ウサギの赤ちゃんを拾って育てる
ことに。
ウサギはライオンを本当の父親
だと思って育ちますが、おせっか
いなサルたちが…。親と子の絆を
あたたかく描く、ステッチ絵本。

金浦短歌会

選ばれて掛魚まつりに威勢良く
真鱈奉納若き日思う
越川 武

越川 武

明けて西働き詰めには悔いは無し
老いて今こそ喜びの湧く
越川 キエコ

越川 キエコ

拉致されて異国の果てに数十年
母の叫びを叶えてほしい
佐藤 恵美子

佐藤 恵美子

年頭の戦友の便りの葉書には
津軽リンゴの匂い乗せくる
佐藤 幸一

佐藤 幸一

奉納の大鱈担ぎ石段を
登る漁夫の吐く息白し
佐藤 つや子

佐藤 つや子

ずっしりと腕に頼れる雪掻きに
鳶の声の爽やかなりき
須藤 恵美子

須藤 恵美子

乗客の二人降りたる無人駅
唄が一人雪掻きており
高橋 卯治

高橋 卯治

節分や潟の水面も凍りつき
動かず佇む鴨の群れあり
森 とし子

森 とし子

寒梅展清楚な花の咲く中に
なお清々しきは白梅の花
細田 文夫

細田 文夫



熱至保育園から
こんにちは!!

外で雪あそび
2月に入って、雪の降る寒い日
が続いています。
そんな中、子どもたちは待つて
ましたとばかりに雪の中に飛び込
みます。
この日は、保育園の玄関前の広
場についた雪のすべり台で遊んで
大はしゃぎ！
お友達や先生と一緒にあって仲
良く滑りました。

旭日単光章を受章

故佐藤貞夫さん(金浦)

佐藤さんは、昭和58年に金浦
町議会議員に初当選。平成7年
までの間、3期12年の永きにわ
たり町政発展のため多大な貢献
をされました。

また、この間、産業建設常任
委員会副委員長、総務財政常任
委員会副委員長等の要職を歴任
されました。

さらに7期21年間にわたり、
町農業委員会委員として、又金
浦町農業協同組合組合長等も歴
任され、農業振興にも尽力され
ました。



お知らせカレンダー 3月

16	水	エアロビクス教室 保健センター (10:00~)
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	春分の日
21	月	振替休日
22	火	お達者会 元気百歳館 (13:30~15:30)
23	水	エアロビクス教室 保健センター (10:00~)
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	生命の貯蓄体操教室 保健センター (13:30~)
29	火	3歳6カ月児健診 保健センター
30	水	4・7・10・12カ月児健診 保健センター エアロビクス教室 保健センター (10:00~)
31	木	
1	火	
2	水	エアロビクス教室 保健センター (10:00~)
3	木	J Aミニデイサービス 元気百歳館
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	生命の貯蓄体操教室 保健センター (13:30~)
8	火	健康相談 元気百歳館 (12:30~13:30) お達者会 元気百歳館 (13:30~15:30)
9	水	エアロビクス教室 保健センター (10:00~)
10	木	にこにこ 保健センター (9:00~12:00)
11	金	
12	土	お話し会 町立図書館「こびあ」幼児室 (10:30~11:00)
13	日	
14	月	健康相談 保健センター (9:30~11:30) 生命の貯蓄体操教室 保健センター (13:30~)
15	火	

発行・編集 秋田県金浦町役場企画課 ☎0183-384330 四三〇〇

秋田県由利郡金浦町金浦字花湯九三一 印刷所 秋田市旭北錦町三 五〇 ㈱三戸印刷所

*この広報紙は環境保護のため再生紙を利用しています。

広報紙に載せてほしくない方は届け出の際に申し出ください。
広報「このうち」は音読テープもあります。ご希望の方は、企画課までお知らせください。

社協一般寄付金
・高山 正様(金浦)

ごめいひくを
お祈りします
三浦公子(80歳)金浦
高山キヨ(91歳)浩寿苑

ごめで結とう婚
三澤 渉(鳥長根)
嶋 貫 有希子(山形県)
佐藤 司(岡の谷地)
川俣 沙織(大竹)

齋藤 斗(直貴)高森
松本 向(哲也)飛
越川 真(雄一)高森
松本 結(武憲)十二林
佐藤 陽(武憲)十二林
齋藤 斗(直貴)高森

おたんじょう
おめでとう



慶弔だより
平成17年1月16日
〜平成17年2月15日

町の人口・世帯

平成17年1月31日
人口
男 2,363人(減1)
女 2,649人(増3)
計 5,012人(増2)
世帯数
1,584戸

ほっと一息...ティータイム
仁賀保町、金浦町、象潟町の合併期が本年10月1日となり、事務サイドでの調整も本格的に始まってきました。
新市での事務調整の話し合いを行うため、最近では金浦町役場にも仁賀保町、象潟町の職員の方々が多く訪れます。
新市誕生まであと7カ月。すばらしい新市の幕開けのために3町の職員みんなが、がんばっています。



休日応急診療在宅当番医
6日(日) 木村医院 (☎43-3308)
13日(日) 伊藤医院 (☎43-4171)
20日(日) すずらん診療所 (☎62-8065)
21日(月) 神坂医院 (☎43-3108)
27日(日) さいとうクリニック (☎43-3105)
象潟町役場 (☎43-3200) でご確認ください。診療時間は9時~12時です。
象潟町医師会